



“リハの視点” でつなぐ

## 地域の障害児者支援

支援学校・障害福祉サービス事業所  
“リハビリテーションの視点” 推進事業報告

北部保健福祉事務所 健康づくり支援班

PT(理学療法士) 岩間 真弓

OT(作業療法士) 浅野 直子

ST(言語聴覚士) 相澤 裕介

# 本日のメニュー

- ① 事業をスタートさせた背景
- ② “リハの視点”と事業内容の紹介  
「教員支援」と「情報交換会」
- ③ まとめ  
事業の効果と課題, そして今後に向けて...

# 地域リハビリテーション推進強化事業の方向性

H25年度 高齢者，障害者に加え，**障害児も対象**となった

H27年度 **地域リハビリテーション推進強化事業の取組方針**を定めた

地域リハ事業は  
障害児者支援に  
力を入れていく方向へ

障害児者支援における  
機関の相互連携  
地域拠点への  
リハビリテーション機

地域リハ  
取組方針

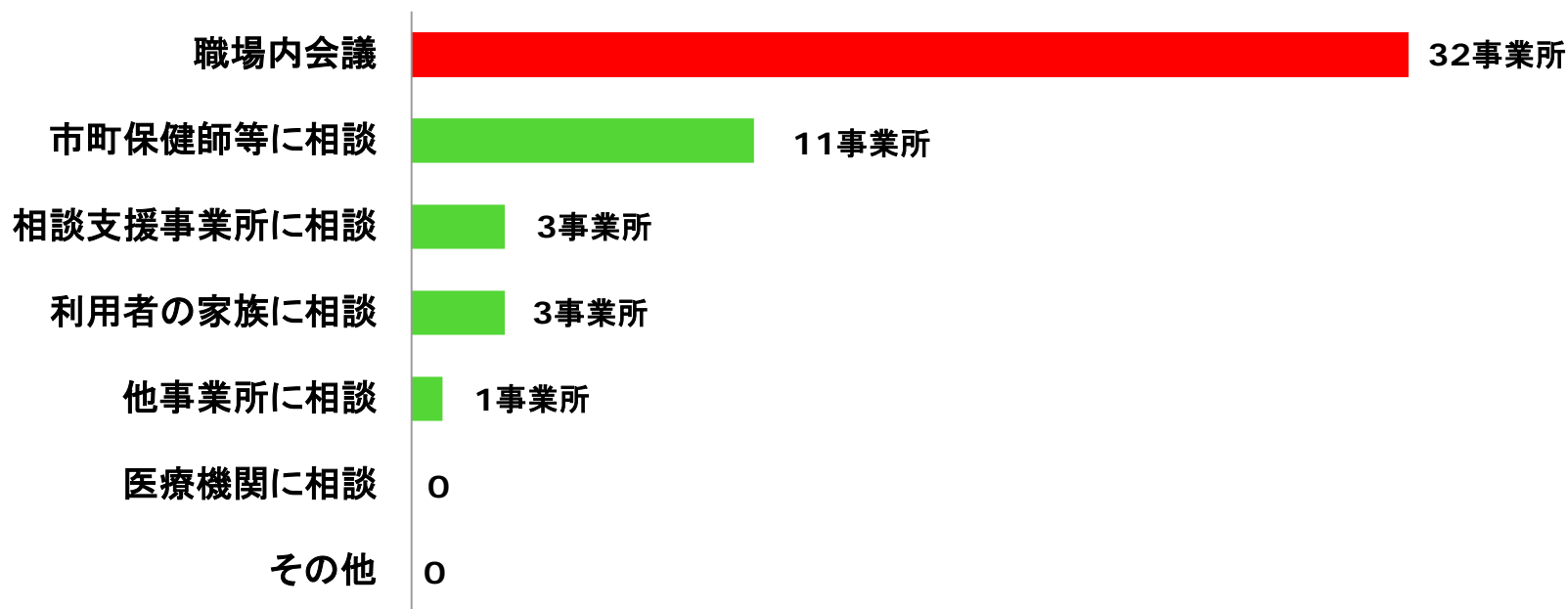
地域包括ケアシステム  
におけるリハビリテー  
ション提供体制の充実

障害特性や生活機能を  
考慮して支援できる  
人材の育成

H24年度

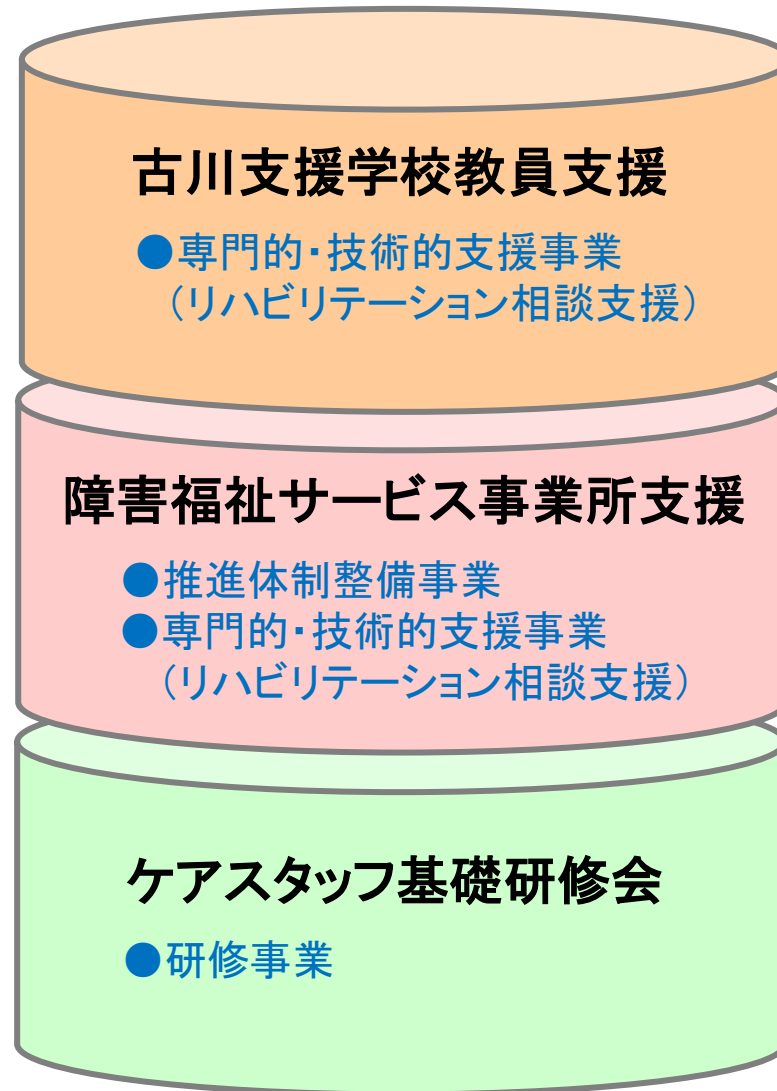
# 「大崎圏域障害福祉サービス事業所の実態調査」

【支援が難しいと感じた時の解決方法】 管内50事業所回答



★ 支援に困った時、**関係機関**（医療機関，他事業所等）への相談は**少なく**，**連携を課題**と捉えている事業所が多いことがわかった。

# H25年度における当事務所の 地域リハビリテーション推進強化事業



# 宮城県立古川支援学校での教員支援

H24年度 古川支援学校よりリハビリテーション相談支援を受ける

H25年度 理学療法士(PT), 作業療法士(OT), 言語聴覚士(ST)の  
リハビリ専門職による「教員支援」を実施



# 障害福祉サービス事業所支援

H25年度 障害福祉サービス事業所スタッフ支援を実施

大崎圏域の障害福祉サービス事業所で働くリハビリ専門職は**ゼロ**！

(平成 25 年度リハビリテーション支援センター調査研究事業報告:結果より)



地域リハ  
事業で

# それぞれに見えてきた課題

古川支援学校

障害福祉サービス事業所



どのような訓練をすれば歩けるようになりますか？

肥満改善の訓練プログラムを教えてください！

教員が地域の事業所を知る機会が少ない。

子どもの卒業後をイメージしにくい。

12年間、学校で学んできたことが卒業後の生活にあまり活かされていない。

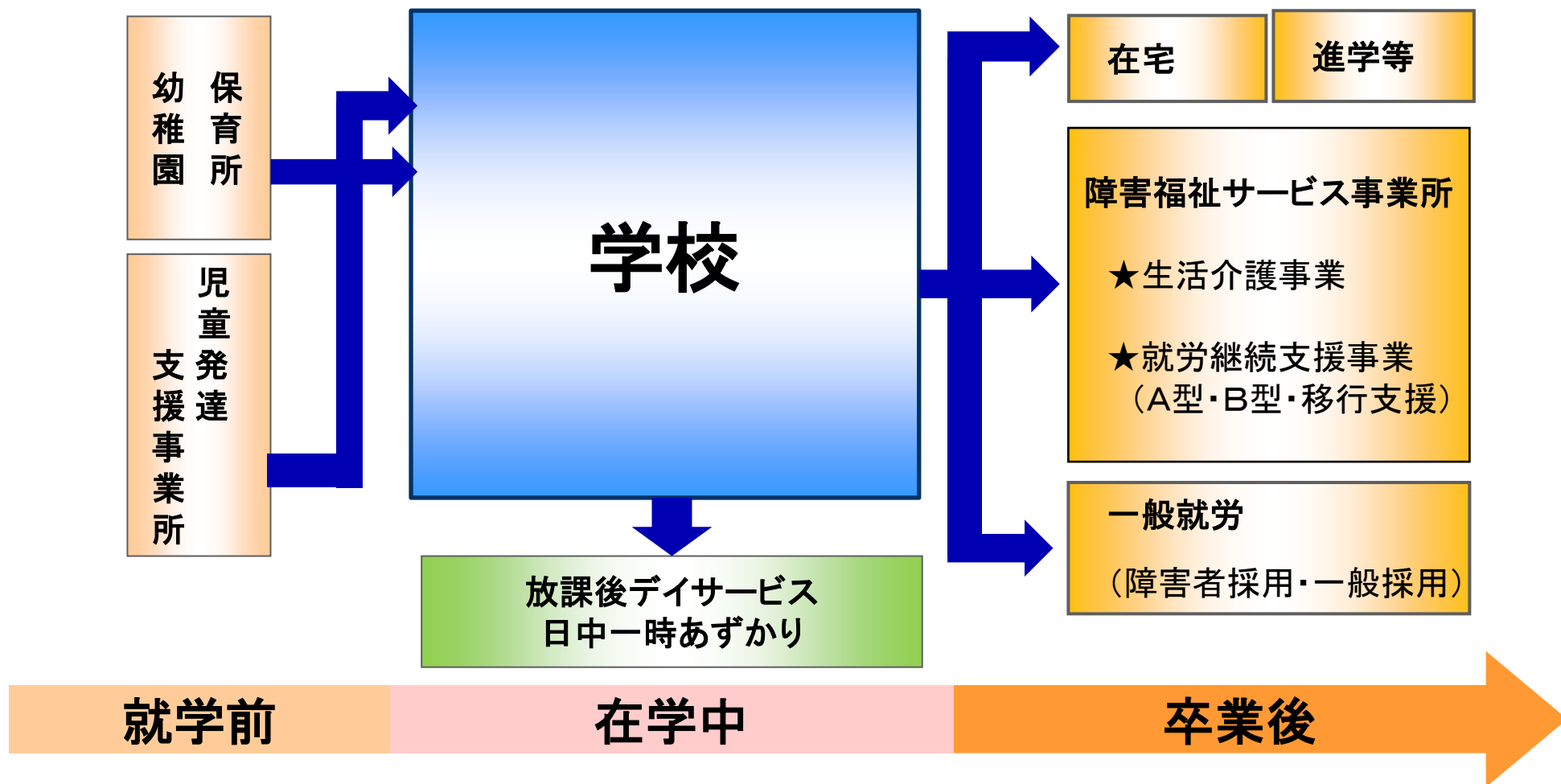
## 共通課題

身体機能訓練に偏りがちな支援

支援者同士の情報共有不足



- 地域の支援者にとって、学校は意外と中が見えにくい場所である。
- 福祉と教育それぞれがとても良い取組をしていますが、現場スタッフ間での情報共有はされにくく、せっかくの良い支援もつながりにくい。



見えてきた課題に対応するには、各事業を一つにまとめ一体的に支援することが効果的と考えた。

## H26年度スタート

リハビリテーションの視点

支援学校・障害福祉サービス事業所

“リハビリテーションの視点”推進事業

情報共有

①古川支援学校教員支援

②障害福祉サービス事業所支援

支援者支援

③支援学校・事業所情報交換会

④支援スタッフ基礎研修会

切れ目ない

支援を目指して

支援者に“リハビリテーションの視点”を伝えていくこと。

そして障害児者が切れ目ない支援を受けられるために、地域全体がもっと情報共有を図れるようになることを目指す、支援者支援事業

# 本日のメニュー

- ① 事業をスタートさせた背景
- ② “リハの視点”と事業内容の紹介  
「教員支援」と「情報交換会」
- ③ まとめ  
事業の効果と課題, そして今後に向けて...

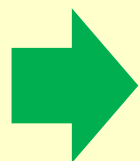
# “リハビリテーションの視点”とは

身体機能回復を目指す視点



だけでなく

“リハの視点”



- ★ 本来の“リハビリテーション”の姿
- ★ 支援者全員に持ってほしい視点



も重視していく考え方を指すもの

# H26年度事業目標

“リハの視点”という共通の考え方を通じて、  
支援学校教員と事業所スタッフが顔の見えるつながりを持つこと



支援学校・障害福祉サービス  
事業所

## “リハビリテーション の視点”推進事業

①古川支援学校教員支援

②障害福祉サービス事業所支援

③支援学校・事業所情報交換会

★作品・製品展示による情報交換  
★卒業生を通じての情報交換

④支援スタッフ基礎研修会

### 事業所紹介 & 作品・製品展示 のご協力をお願い

研修会の一環として、大崎圏域の障害福祉サービス事業所で作られているステキな作品・製品を  
手に取りながら、製図スタッフ職士の情報交換・共有ができるフリータイムを設けたいと考えています。  
この機会により多くの製図スタッフの皆様方が、さらにつながりを深めていただけますように、  
事業所紹介と作品・製品の展示に、ご協力をよろしくお願いいたします。

研修会日時：平成27年2月6日(金) 18:30~20:00

主催：古川支援学校  
協賛：大崎圏域1課 大崎圏域内（イオン大崎駅前）

○展示ブースは1課大崎駅前1階2号ブース、バスA2館まで（近郊線乗降所）  
○有志・参加費無料。参加費1人1,000円の活動の補助や資料費の納入を希望される方は別途お申し込みください。  
○展示物の購入・お申し込みは17時30分～18時30分までお申し込みください。

お問い合わせ先：大崎圏域障害福祉サービス課 課長 藤田 隆夫  
TEL: 0229-87-8010

お申し込み  
お問い合わせ



☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆  
児童・生徒が、支援学校在学中  
から卒業後へとライフステージが  
変わっても、切れ目のない支援を  
受けられるよう、御本人や関係  
スタッフの方のお話を聞き、明日  
からの支援につけていきたいと思いますか？  
☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

12月10日(水)

午後3時40分～  
午後4時40分

古川支援学校 2階 集会室

◆講師

古川支援学校 卒業生

吉岡 拓也 氏

加美町障害者自立支援事業所  
クローバーハウス 管理者

伊藤 勝則 氏

◆お問い合わせ

北郡障害福祉事務所 健康づくり支援課

「事業所でこんなふうに通っています」

卒業生は今



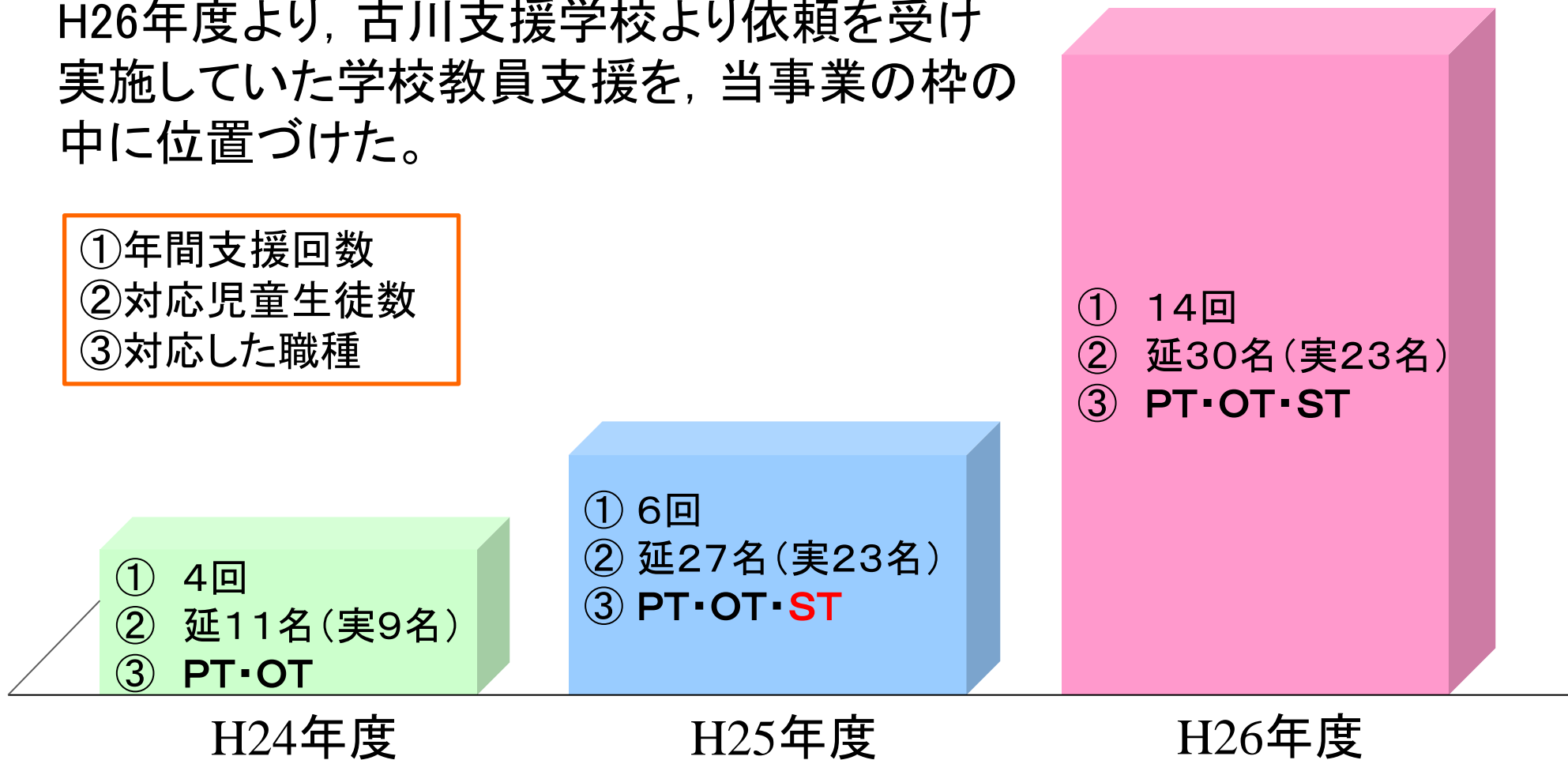
事業所・支援学校情報交換会

平成二十六年年度支援学校・障害福祉サービス事業所リハビリテーションの視点推進事業

# 古川支援学校における教員支援 (リハビリテーション相談)

H26年度より、古川支援学校より依頼を受け実施していた学校教員支援を、当事業の枠の中に位置づけた。

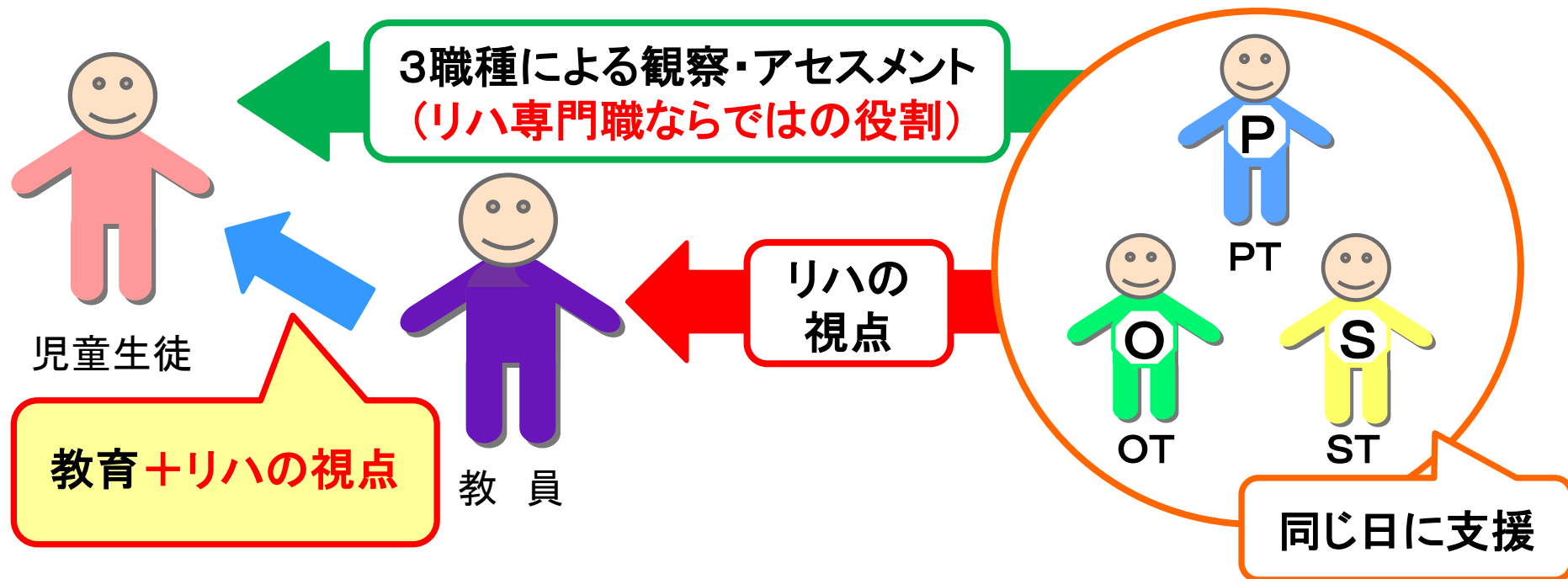
- ①年間支援回数
- ②対応児童生徒数
- ③対応した職種





# リハビリ 3 職種でおじゃまします！

理学療法士 (PT), 作業療法士 (OT), 言語聴覚士 (ST) の 3 職種が  
各専門職としてのアセスメント + リハの視点 を教員に伝える

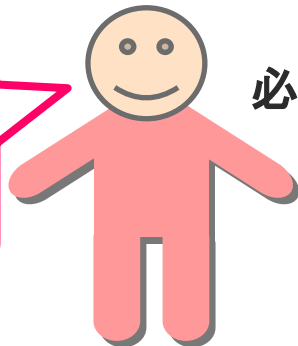


3つのリハ専門職が対応することで、より重層的な支援を行うことができる

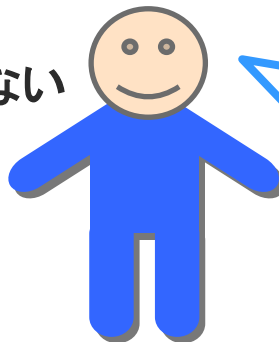


# 教員にも“リハの視点”を！

教員が相談に  
挙げてくる子ども



必ずしも一致しない



リハの視点から見て  
気にかかる子ども

## 【こんな相談ありました】

「歩けるための訓練方法を教えてほしい」

### 【“リハの視点”対応】

⇒「歩く」は移動の手段のひとつ。

子どもを「歩かせる」ではなく  
子どもが「歩きたい」と思える支援を  
考えてみませんか？

（本人の思いに寄り添った支援へ）

## 【こんな場面が気になります】

例① 学校では常に側に先生がいるけれど、  
社会では「一人で過ごせる力」も必要かも。  
（在学中からできる人的な環境設定）

例② 机と椅子の高さを合わせてあげたら、  
もっと字が書きやすくなるかも。  
（作業しやすい物的な環境設定）

教員のニーズを大事にしながら、  
“リハの視点”での支援を伝える

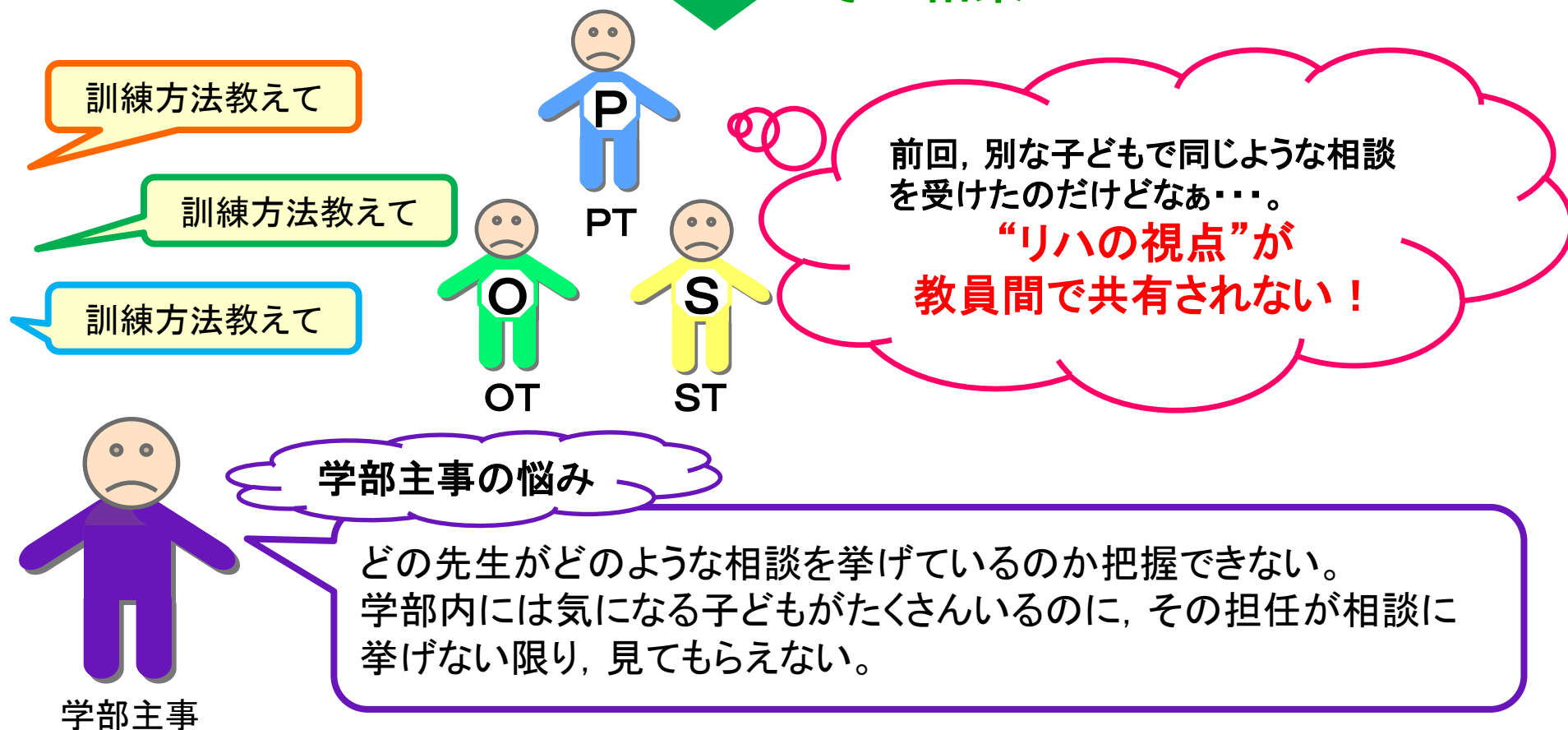
こちらから教員に働きかけ、教員  
に“リハの視点”を知っていただく



# 教員支援(相談)で課題が見えてきた

担任が個人レベルで相談を挙げる ⇒ その担任のみに助言・対応  
同じような悩みを持つ他の教員に, その相談内容・対応が見えなかった

その結果...





# 教員支援(相談)体制を見直そう

教員が相談を挙げる際に見えてきた課題を相談担当教員と共有し、各学部主事(小・中・高等部)も一緒に、校内相談体制の検討を行った。

リハ専門職

学部主事

相談担当教員

H27年度～

担任は学部主事を通して  
相談を挙げることになった





# “リハの視点”をたくさんの教員に！

相談だけではなく、教員向けの研修会や勉強会を実施した。



**相談ケースの振り返り勉強会**  
放課後に教員が集まり、相談ケースの支援について意見を出し合います。



**“リハの視点”研修会開催**  
テーマは『PT・OT・STから見た学校給食』

# 支援学校・事業所情報交換会

支援学校内だけの支援にとどまらず、  
卒業生が生活する事業所との結びつきを図れるように...

★作品・製品展示による情報交換

★卒業生を通じての情報交換

# ★作品・製品展示による情報交換

- 支援者向け研修会の中に、地域の障害福祉サービス事業所と古川支援学校の**製品・作品展示と紹介の場**を設定した。
- 作品展示を行ったことにより、**互いに話しかけやすい雰囲気**となり、活発な情報交換が行われた。



# ★卒業生を通じての情報交換【古川支援学校にて実施】

- 教員が地域の事業所で働く卒業生の話を聞くことで卒業後のイメージを持てるようになることを目指した。
- 在学中の支援が卒業後の支援にどのようなにつながっているかを伝えた。
- 事業所と支援学校との情報共有の課題について、互いに意見を出し合うことができた。



100名以上の先生が  
参加してくださいました！

ここに動画が入ります

# 本日のメニュー

- ① 事業をスタートさせた背景
- ② “リハの視点”と事業内容の紹介  
「教員支援」と「情報交換会」
- ③ まとめ  
事業の効果と課題, そして今後に向けて...



# 事業の効果

- 事業所と学校の両支援を並行して行うことによって、見えてきた地域の課題解決に向け、**教育・福祉の双方へ働きかけていくことができた。**
- 卒業後の地域生活につながる支援について、**在学中の段階から教員と一緒に考えることができるようになった。**
- 地域の教育と福祉の支援者が同じ場に集い、顔を合わせる機会を設けたことにより、**互いの立場や役割を知り、情報共有を図ることにつながった。**

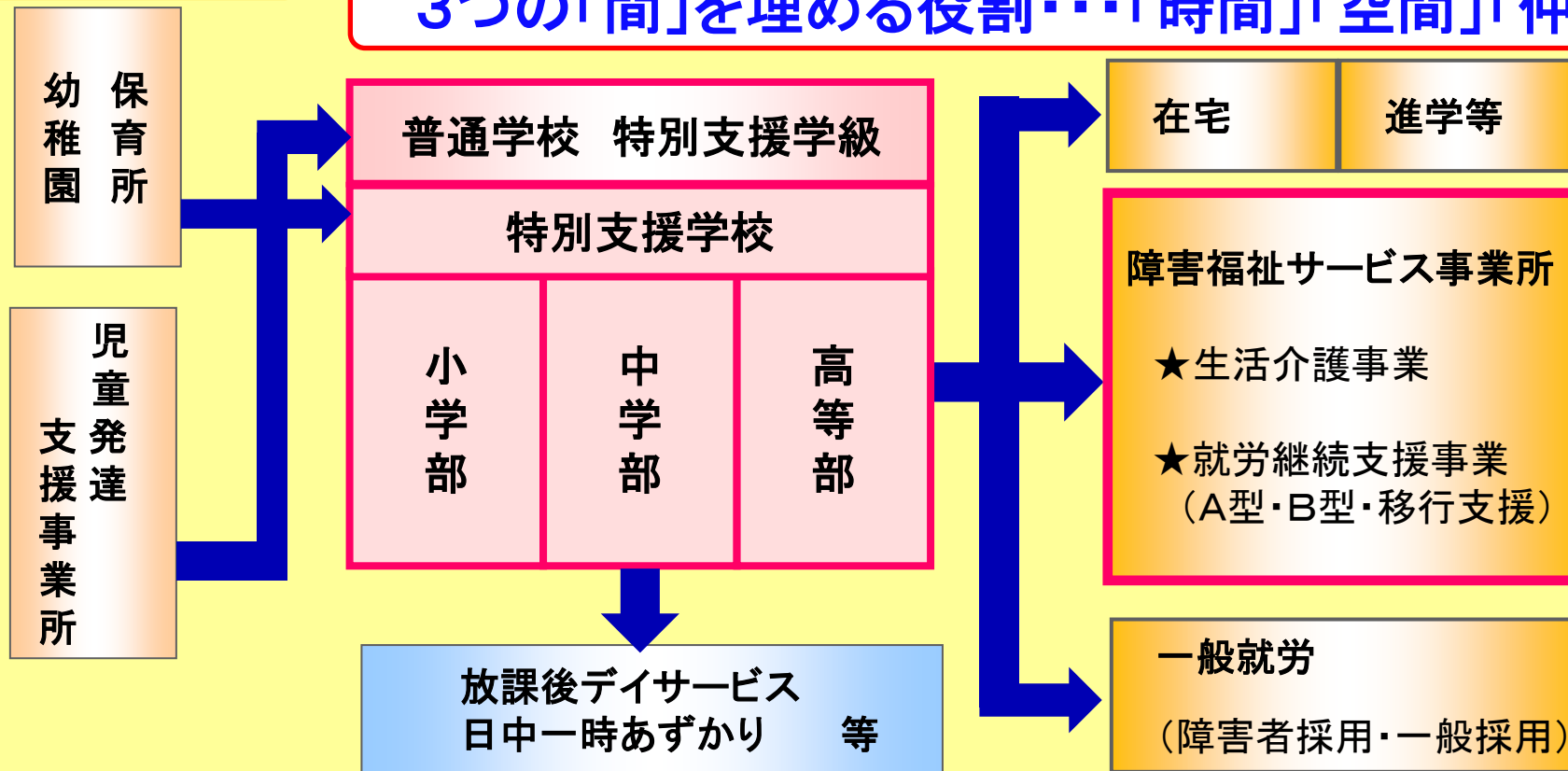
# 課題

- 支援学校，事業所ともに，他の関係機関（事業所，学校だけではなく医療機関や市町も含む）からの情報収集や情報共有に対してまだまだ消極的である。
- 障害児者分野において支援学校の人事異動，事業所のスタッフの離職など支援者の入れ替わりが多く，リハの視点による支援定着には時間が必要。
- 大崎圏域の障害福祉サービス事業所で働くリハビリ専門職は未だにゼロのままであり，支援者がタイムリーに相談していくことが難しい。

# 地域リハ事業

リハ3職種の専門性+リハの視点による横断的支援

3つの「間」を埋める役割・・・「時間」「空間」「仲間」



- ① ライフステージ全般において横断的に対応
- ② 福祉・教育双方への地域支援の提案
- ③ 地域全体での切れ目ない支援への意識付け

地域全体を知る保健福祉事務所のリハビリ専門職だからできる支援

# 双方向の関係性をもっと太いものへ



各関係機関が互いに情報共有し、それぞれの役割を理解しながら、積極的な協働を進めていくことが必要。**つながりをより太くしていこう！**

地域の障害児者がいきいきと自分らしく暮らせるように

現場の支援者がいきいきと笑顔で働けるように

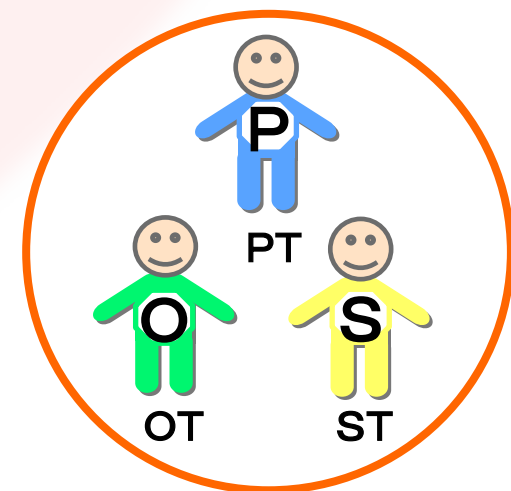
これからも引き続き、

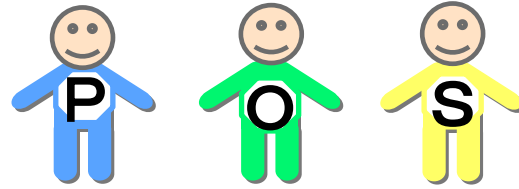
「リハの視点」での「支援者への支援」を続け、

地域の現状・課題を整理し、

関係機関との「協働」、「情報共有」を図りながら、

障害児者を持続的に支えられる地域を創造していきます。





ご清聴ありがとうございました

